

平成21年の水事情の概況



Point

平成21年は、ダム管理開始後35年間で8番目に少ない降水量で、国管理5ダムの貯水量が管理開始以降の最低レベル近くまで低下し、一時はかなり心配される水事情でした。沖縄総合事務局では、沖縄渇水対策連絡協議会を通じて節水の呼びかけを行うとともに、ダム群の効果的な運用に努めました。近年、台風期の降雨が少ない年が増えており、常によりきめ細かな水運用を行っていく必要があります。

開発建設部

国管理ダムを中心に

平成21年の本島内、国管理7ダムの貯水率は、前年末の少雨傾向により、1月1日時点で、71.6%と、平年値を10.3%も下回るスタートとなりました。

少雨傾向は、年が変わっても続き、2月のダム流域平均降水量は、昭和49年のダム運用開始以降の同月最低値を記録しました。(平成21年は9月にも過去最低値を記録)その後も3月を除いて、梅雨期前の5月初旬まで少雨傾向となり、貯水率が50%を切ったため、5月26日に沖縄渇水対策連絡協議会(渇水協)幹事会が開催され、節水啓発パンフレットの街頭配布等、県民向けに節水の呼びかけを行うことが決定され、渇水協の各機関毎に対策が実施されました。沖縄総合事務局としても節水に努めるべく局長から各部長に通知がなされました。

少雨傾向は、5月18日の梅雨入り後も続きましたが、6月中旬以降のまとまった降水により、水事情は改善され、7月7日の梅雨

明け時点で貯水率が79.7%となったことから、渇水協では、節水対策を当分の間解除することとし、当局においても節水対策を解除しました。

しかしながら梅雨明け後は、再び極端な少雨傾向が3ヶ月間連続し、5ダムの貯水率が、この時期の過去最低値を記録する状況となったため、10月7日に渇水協幹事会が開催され、再度節水啓発パンフレット等の街頭配布による県民向け節水の呼びかけと関係各機関においても節水対策を講じることに決定されました。これを受け、当局においても節水対策に取り組むこととし、10月15日に記者発表を行っております。

その後、10月末の台風20号及び秋雨前線の影響による降水により、貯水率はやや回復したものの、12月31日時点で7ダム貯水率62.5%と、平年値を15.1%も下回る状況で年明けを迎えることとなりました。

(※図1、表1参照)

図1 7ダム運用開始以降の貯水容量曲線図(H17.3.31までは6ダム容量)

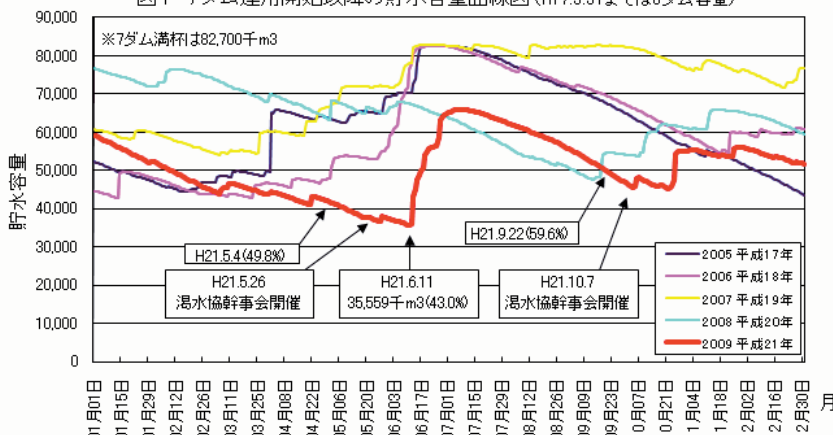


表1 平成21年と過去35年間のダム流域平均降水量の比較(降水量単位はmm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
過去35年間(S49～H20) 平均値	147	160	206	210	286	308	183	253	262	202	172	127	2,514
平成21年													
降水量	83	36	268	123	153	550	52	89	50	423	193	56	2,076
平均値に対する割合	56%	23%	130%	59%	53%	179%	28%	35%	19%	209%	112%	44%	83%
36年間での順位	6位	1位	28位	8位	4位	32位	7位	5位	1位	33位	23位	7位	8位

※ 降水量はダム流域平均降水量。S49.1～S50.7は福地ダムのみ、S50.8～S57.2は福地と新川の2ダム、S57.3～S63.3は前2ダム+安波・普久川の4ダム、S63.4～H5.3は前4ダム+辺野喜の5ダム、H5.4～H17.3は前5ダム+漢那の6ダム、H17.4以降は前6ダム+羽地の7ダムのデータ。

国管理ダムの運用

国管理5ダムは、沖縄本島の生活用水の50%強を供給する最重要水源であり、沖縄本島の水運用においては、この水源をいかに効果的に運用するかがカギとなります。また国ダムは、ダム所在地域の重要な水源となっており、これをパシクさせないような運用が必要です。更に、降水量を可能な限り効率よく貯めるための貯水池容量管理も重要です。国ダムでは、このように渇水に備えたきめ細かな運用を常時行っています。(図2参照)

北部5ダムの貯水量変動傾向

沖縄のダム貯水量の変動傾向は、前年の台風期から当該年の梅雨期までに下がり続けた後、梅雨期に貯水量が大きく回復し、台風期後半までほぼその水準を維持するパターンが一般的であります。近年、従来の一般的な貯水量変動パターンと違い、梅雨明けから年末まで貯水量が下がり続けるケース(平成17年)や台風期で若干回復するものの平年を大きく下回った状態で年末・年始を迎えるケース(平成18年、平成21年)等、年初のスタート水位(貯水率)が低い位置から始まるパターンが増えつつあります。これは、より渇水の危険性が高まる傾向にあることを示しており、今後、注視していく必要があります。(図3参照)



図2 沖縄本島の水運用

